

二月六日土は、国際ロータリー、ゾーン1・2・3会員増強セミナーが横浜のホテル・キャメロット・ジャパンで開催された。ゾーンは、日本とグアム、北マリアナ諸島、パラオ、ミクロネシアが含まれている地域である。ゾーン内の地区ガバナー、ガバナーエレクト、会員増強委員会委員長が出席義務者であるが、ガバナーの出席は数えるほどで、出席者のほとんどがガバナーエレクトと委員長である。

ロータリーの組織を活力あるものにするには、会員の確保が重要であるが、ここ数年の間、アメリカ、日本、オーストラリア、カナダなどの国々で会員減少が続いている。韓国やインド、アフリカでの会員は増加している。会員が減少すると活力が失われるのか、活力が失われたので会員が減少するのか、「鶏と卵、どちらが先か」を議論しても、ゾーン1・2・3では会員が減少しているのは事実である。会員減少は、入会者が減少しているのか、退会者が増加しているのか、退会と言っても年齢などによる自然減もある。

退会者をみると、入会三年以内の人と十五年以上在籍した人が多いようである。前者では、入会時のオリエンテーションや入会後のフォローが足りないのではないかとされる。後者では、年齢、仕事などが

## 退会防止と新会員増



(会員増強セミナーのひとコマ)

理由になっているようだ。現ロータリアンでも六十歳以上の占める割合は高い。退職されたり、お亡くなりになったりすれば、会員減になる。

では、会員増を図るにはどうすればよいのか。若年者と女性の取り込みも方策である。最近若くして起業する人や女性が起業することも多い。新しい職業も生まれていて、既存の職業分類ではカバーできない職業もある。しかし、職業分類を増やせば良いというものでもない。その人がロータリアンに相応しいかの判断は重要である。また、女性を入会させる・させないは、強制するものではなく、義務でもない。女性問題と捉えるクラブもあるが、これは各クラブの自主的な判断である。地区によっては女性会員だけのクラブも誕生している。

先の会員増強セミナーでは、長い討論の時間が持たれ、いろいろな実例も紹介された。クラブによって、さまざまな問題・条件があるようである。基本的には、クラブの雰囲気や沈滞し、会員間に溝が出来ていけば、退会者は増えるだろう。生き生きと活動し、クラブの会員同士の親睦が保たれていけば、入会を勧めるには持ってこいの環境である。

最近、ある退会した人に会ったが、曰く「ロータリーは面白くない」(ドデシタ)